

我ら地球市民の農へ

## とーくサロン 創造農学研究会 (since1993)

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町 18-16 サマリアシティハイツ 605

Tel 03-6661-1684 (F 共) & 03-3721-8046 Fax 03-3721-8082

山代勁二 (2009. 11. 16)

# 日本農業を語る

## 第一回 農業と農村問題の論点を探る

### 生物としての人間、地域に住む人間からの目

——経済は地球のサブシステムである——

住んでいる人からの地球を見ると、空間は概念的に次のような構成になっている。

中心核に農業（農地＋ムラ）があり、外縁1として工業（工場＋住宅街）がある。更に、外縁2として、商業（通商空間）があり、その外縁に外縁3として、宇宙に繋がる自然生態系がある。

外縁2までは人工的生態系すなわち経済（生活）のために改造された可住空間である。

以上の全体を支配するのは、外縁3に広がる地球システムである。経済は地球のサブシステムである。

生命との関係では、水と大気の大循環が人工的生態系を支配している。水（土壌、森林）と大気の運動で水質と大気が守られてきたが、工業化によって自浄能力を超える物質が滞留し大循環に干渉し、その結果生命がよってたつ人工的生態系を損傷している。

### 自然観と社会観（つぶやき）

経済には、環境創造経済と環境消費経済がある。

農業は本来は環境創造経済。農業は非常に広い空間を使う（依存する）。

工業は資源消費経済。資源の持続的補給が必要。

#### 所有という概念

先進文明社会は、所有（私的、排他、競争、自立）を軸にした価値観が支配。

自然を所有（私的、排他）という幻想が働き近代国家」を作る。産業革命以降は、所有という概念が圧倒的上位に。所有とは占拠である。そのゴールは独占。

自然（外縁3）は所有できない。占拠もできない。

経営学では占拠をすることで所有が合法化されている。本来できないことをしていると

いう矛盾が噴出。

## 農業の工業化 (近代化農業)

農業先進国と農業資源国。

農業先進国とは？

農業生産力の発達

①資源との対立、環境摩擦

②量産、規模のメリット・・・市場対応、コスト構造の複雑化 (運ぶ、包む、保管する、ゴミ処理をする・・・この圧縮には工業力が必要)

このシステムが稼働しているのが文明国。

農業先進国の乗っている土台は工業システム。工業システムが載っている土台は資源、資源を作り出しているのが農業・農村。このパズルのような関連。

農業生産力の制約

①水

②土

③労働力

## グローバルな視野で論ずる

農を語る・・・どういう視点で？

・・・誰に語るの？ (グローバルなコミュニケーションは難しい)

語る人の立場と論理・・・求めたい同意

①農業の多面的機能・・・地球環境問題に貢献

②格差・貧困・食糧不足・・・世界に貢献

③食料の増産、分配・・・世界に貢献

④自給力・安定供給・・・国家システム

⑤農工商連携・経営確立・・・地域システム・農場経営システム

⑥人口問題・地域の自立問題・・・世界に貢献

以上の①～⑥に共通する課題・・・グローバルなコンセンサス

①技術開発

②教育、専門家育成

③共通政策開発

④コミュニケーション開発

## 議論のための4つのボックス

I) 地球の危機・・・農業と環境の関連の理解、環境をどう救うか？

II) 農業とは何か・・・何故この議論が必要か、なぜコンセンサスが必要か？

III) 農業の未来・・・それは文明の未来、人の未来である。持続的農法は？

IV) 農村をどう作るか・・・都市と農村の関係をどうバランスを取るか？

I) 地球の危機

——農業と環境の関連の理解、環境をどう救うか？

1. 傷だらけの地球
2. 農業・農村からの救済の入り口は？

II) 日本農業を語る前提、同意事項

——農業とは何か・・・何故この議論が必要か、なぜコンセンサスが必要か？

1. 農業問題とは？誰にとっての？
2. 都市と農村の深まる亀裂
3. 農業の性格を掘り下げると
4. 農業に対する無関心、忌避の感情の背景
5. 求められる広い視野
6. 農業と農村の価値（経済面）  
農業は水をつくる産業、工業は水を消費する産業  
農業と水  
農業への化石資源の浸透  
先進国経済の3つの足かせ

III) 農業の未来

——それは文明の未来、人の未来である。持続的農法は？

1. 歴史的反省の立脚点  
規模拡大路線点検と脱皮  
畜産とともにある農業と農村の消長
2. 付加価値を上げる農業経営とその戦略  
土台の形成条件  
9つの付加価値戦略
3. 農業再生の商品開発  
農的付加価値の創造と地域産業の素材構成  
農法の革新と農工商連携  
農村における第二次産業・・・薄利多売、東京中心のシステムからの脱皮

IV) 農村計画の基本発想

——都市と農村の関係をどうバランスを取るか？

1. 農村計画の基本理念  
生存と生活の原理から地域のありかたを考える  
「健康と美と持続性・・・シューマッハー」の論点

我ら地球市民の農へ

## とーくサロン 創造農学研究会 (since1993)

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町 18-16 サマリアシティハイツ 605

Tel 03-6661-1684 (F 共) & 03-3721-8046 Fax 03-3721-8082

環境・水・空気・生態系の保全の実際  
農村のなし得る産業としてのサービス

### 2. 地域産業づくりと農業経営・・・議論の焦点

農業の近代化とは？高投入高生産か低投入低生産かの無益な論争  
生産性を巡って・・・競争と関係ない生産性  
自給率を巡って・・・地域経済の車の両輪としての食糧と燃料  
住民の手での森林管理・・・入会権を見直す  
工業化した農業のアキレス腱とその回復  
低投入・高産出の高付加価値農業  
水資源の開発と利用、管理  
里山の開発と利用

### 3. 農村から夢を発信する・・・思考方法

農業はエネルギー産業だがどう生かす？  
世界は1つ、地域の再生には世界は同じ戦略で  
公共投資と21世紀の産業構造の選択  
大地に生きる人間労働を基本に見据えて  
自然エネルギーの活用と新産業の誕生の可能性

以上